

議員定数調査特別委員会

★第3回委員会

令和2年9月7日(月)

第3回委員会では、各議員が議員定数の具体的な説明や人数を示した。

また、今回は、委員間討議が行われ、活発な話し合いが行われた。その中で「民意を聞く場を設けてはどうか」などの声が上がった。今後も調査をしていく予定である。今回の話し合いを、委員長、副委員長がまとめ、精査した上、検討される。

今後も議員定数のあり方を委員間討議や調査等をとおこないながら進める。

★前回までの流れ

第2回委員会 令和2年4月20日(月)
第2回委員会では、現時点における議員定数の考え方が各議員より示された。その結果としては次のとおりである。

- ◎削減すべき 10名
- ◎現状維持 5名
- ◎保留 2名

議員
定数
削減すべき
……
12名



洞口 雅章 (1名削減)

安易な削減は議会の機能を弱める。削減と議会改革は別もの。議論の経緯を市民に説明して決めるべき。



岩村 和則 (1名削減)

市民から議員の数が多し、定数削減しすぎても、各地域の声が市政に届けられない。



荒井 秀樹 (2名削減)

議会サポーター制度、議会モニター制度などを取り入れたら、定数削減しても、議会運営は可能だと考える。



小倉 拓 (4名削減)

市民から議員数が多いとよく聴く。議会改革等で工夫することで、4名削減でも現行業務の質は変わらない。



田中 秀幸 (1名削減)

市民に関心を持つてもらうためにも、議会としての責務を果たす。しっかりとした議会にすることが最優先。



佐藤 匡則 (2名削減)

大滝選挙区が廃止されたことで1名減。今後の人口の推移、減少を考えるともう1名減。合計2減と考える。



犬塚 貴敬 (2名削減)

多様な住民意見への理解が必要。削減しても時代要請を手法や手段で応えることは可能だと考えるため。



寺島 徹 (2名削減)

大滝選挙区が廃止されたことで1名減。採決を考えると、定数は偶数にするのが前例だと考える。




篠原 一寿 (2名削減)


大滝選挙区が廃止されたことで1名減。3名減と考えるが、採決の際の数を考えると偶数にすべきと考える。



辻浦 義浩 (2名削減)
人口減少に伴う有権者数の減少から、2減の考え。市民との意見交換会を検討する事が重要だと考える。



阿戸 孝之 (2名削減)
前回、選挙時に住民から議員は多すぎると言われていた。2減でも議員活動に影響はないと考える。



小久保重孝 (2名削減)
人口減少の中で2減とすべき。なお2減後は多様性のある議会とするためにも無闇に減らすべきではない。


議員定数
現状維持
……5名




吉野 英雄 (現状維持)
これ以上、定数削減を行うと各地域の声が市チエツク機能の低下を懸念する。




堀 博志 (現状維持)
議会改革が最優先である。その中で議論を交わし議員定数調査を行うべきである。




大光 力 (現状維持)
若手議員のなり手を増やしてほしいとの声を聴く。各地域に議員は必要ではないかと考える。



渡辺 雅子 (現状維持)
伊達市は、市街化調整区域等、まだまだたくさんさんの声を幅広く聞くためにも、現状維持すべきと考える。



阿部 正明 (現状維持)
1減2減4減、様々な考えがあるが、現在の定員が適正なのか市民の声を傾聴すべき。



山田 勇
以上が各委員の意見でした。なお、私は委員長なので意見を差し控えさせていただきます。

★今回の委員会では…

第3回委員会での結果としては、次の通りである。

- 削減すべき…12名
 - ・1名減 3名
 - ・2名減 8名
 - ・4名減 1名
- 現状維持…5名



※詳しい内容はこちらから。